

社会技術研究開発事業
平成21年度研究開発実施報告書

研究開発プログラム「犯罪からの子どもの安全」

研究開発プロジェクト名

「系統的な“防犯学習教材”研究開発・実践プロジェクト」

研究代表者氏名 坂元 昂
(社団法人 日本教育工学振興会 会長)

1. 研究開発プロジェクト名

系統的な“防犯学習教材”研究開発・実践プロジェクト

2. 研究開発実施の要約

平成20年度からは、事業計画に対応する「調査・実践・検証グループ（略称：調査G）」、「防犯情報分析グループ（略称：分析G）」、「教材開発グループ（略称：教材G）」、「防犯指導支援システムグループ（略称：支援G）」の4つの研究グループを構成し、研究開発に当たっており、当該年度においても引き続き同様のグループ構成にて研究開発に当たった。調査Gは本プロジェクトの中核機能として総括業務及び情報収集業務を主に担い、分析Gは防犯特性分析システムの構築を担い、教材Gは防犯指導力育成プログラム構築を担い、支援Gは防犯指導支援システム構築を担うものとした。

当該年度においては、調査対象地域以外でのトライアウト研修会の実施を経て、「子どもを守る防犯リーダーの防犯指導力研修テキスト試作版」を活用した研修会を調査対象の4地域で実施し、PDCAサイクルを始動させた。PDCAサイクル始動にあたっては、本プロジェクトの教材及び支援システムを活用した研修会実施による地域の防犯活動変容の事前調査を実施した。（事後調査は、最終年度に実施予定であり、これを本プロジェクトにおける効果測定とする計画である。）

また、上記の研修会の結果を元に、本格的な「子どもを守る防犯リーダーの防犯指導力研修テキスト」の開発に着手するとともに、防犯コーディネータの規準・基準表の開発も進めた。

尚、上記の研修会においては、「防犯指導支援システム」に含まれる「防犯指導効果調査システム」を試行し、研修対象者の自己評価による事前事後調査を実施した。その結果をシステム改善に反映させている。

同じく「防犯指導支援システム」に含まれる「防犯特性分析システム」のプロトタイプ構築および効果測定手法の設計も行った。

3. 研究開発実施の具体的内容

(1) 研究開発目標

本プロジェクトの最終目標は、以下の3つのシステムの確立である。

「防犯リーダーの防犯指導力育成システム」

「防犯コーディネータの防犯リーダー指導力育成システム」

「防犯指導支援システム」

※「防犯指導支援システム」には、「防犯情報検索システム」「防犯活動検索システム」「防犯特性分析システム」「防犯指導効果調査システム」「防犯遠隔学習システム」が含まれる。

当該年度は、調査対象地域以外でのトライアウト研修会の実施を経て、調査対象4地域において「試作版 子どもを守る防犯リーダーの防犯指導力研修テキスト」及び「防犯指導効果調査システム」を使用した研修会を調査Gの主導で実施し、PDCAサイクルを始動させ、防犯指導支援システムの一部について仮運用・検証を実施することを目標としていた。

(2) 実施方法・実施内容

①インタビュー調査の実施

昨年度に引き続き、訪問先での調査内容を記録するため、その地域や団体などで活動されている方に事前に承諾をいただき、インタビュー内容をビデオに記録した。この内容をテキストに起こし、それらを分析することで、後述の規準表の項目に反映させた。また、ビデオ内容を編集し、研修で利用する教材とすることも目的とした。主なインタビュー相手とその内容の項目は次のとおり。

○大阪教育大学メンタル危機サポートセンター臨床心理士 野坂祐子様

日時 平成21年8月21日(金)

場所 梅田ビジネスセンター

内容 次の項目についてのインタビューを実施

- ・トラウマについて
- ・生活場面で困る子どもの精神的ダメージ
- ・生活場面以外で困る子どもの精神的ダメージ
- ・犯罪被害を受けた子どものケア方法
- ・子どものタイプ別ケア方法
- ・地域と保護者の子どもへの接し方

○有限会社リング 代表 齋藤陽子様

日時 平成21年8月22日(土)

場所 有限会社リング

内容 次の項目についてのインタビューを実施

- ・防犯ブザーについて
- ・学校への防犯グッズ
- ・地域への防犯グッズ

○福山大学 学生ボランティア団体 PACE 越智敬介さん、皿谷洋子さん

日時 平成21年8月24日(月)

場所 福山大学人間文化学部心理学科

内容 次の項目についてのインタビューを実施

- ・地域安全ボランティア活動について
- ・地域安全マップ作り活動について

②トライアウト研修会の実施（京都市立藤城小学校）

調査対象地域でのPDCAを始動させる前に、京都市立藤城小学校の学校運営協議会のメンバーを中心に、トライアウト研修会を実施した。概要は以下の通り。

目的：「子どもを守る防犯リーダー指導力アップテキスト試作版」「防犯指導効果調査システム」の有用性、及び、研修会の進め方についてのPDCA事前検証

参加者：学校運営協議会メンバー、近隣地区の自主防犯ボランティアなど
毎回20名程度が参加

第一回トライアウト研修会

日時 平成21年6月27日(土) 11:00-16:00

内容 次のテキスト項目を検証

- ・出会い系サイトで子どもが巻き込まれる・防犯ブザーの効果と留意点
- ・広がるネット犯罪・地域安全マップ

第二回トライアウト研修会

日時 平成21年9月12日(土) 11:00-16:00

場所 京都市立藤城小学校

内容 2つのグループに分かれて、ワークショップ型の研修を実施した。

- ・地域安全マップ・ネット安全マップ

③ヒアリングを目的とした研修会の実施

PDCAを前提とした調査対象地域の一つとして、東京都港区南山地域に折衝していたが、継続的な協力が難しいということで、PDCAの一環とは別に、単発的なヒアリングを目的とした研修会を実施し、テキスト教材試作版及びビデオ教材試作版に対する意見聴取を行った。

日時：平成21年7月3日 AM10:45～12:00

PTA実行委員会の会議の席で、会議後の1時間程度を使わせてもらう形で模擬研修会を実施。

場所：港区立 南山小学校 会議室

講師：西江麻由美（JAPET リサーチアシスタント研究員）

オブザーバー：NPO法人 子どもの危険回避研究所 横矢真理

参加者：15名

- ・南山小学校 副校長先生
- ・PTA実行委員会 会長 谷川 実 氏
- ・役員 13名

（社会福祉協議会の役員及び地域のパトロールを実践している保護者も含む）

④調査対象地域における研修会の実施（PDCAサイクルの始動）

今年度からPDCAサイクル始動のための調査対象地域における研修会を計画通り実施し、テキスト試作版をはじめとした教材群の一部、及び防犯指導効果調査システムを試行することができた。※

地域	研修会実施	参加者属性・参加人数	世話役 属性・氏名	協力団体
東京都 足立区 西新井第一小学校区	H21.11.13 10:00～12:00	PTA、ボランティア 40名	西新井第一小学校 前・校長 同校 開かれた学校づくり協議会委員 全国・東京都学校安全教育研究会 顧問 鎌倉女子大学非常勤講師 学校安全教育研究所 事務局長 矢萩恵一 氏	・西新井第一小学校(現・校長) ・西一小地域安全ボランティア ・足立区教育委員会
静岡県 藤枝市 広幡地区	H21.11.23 9:00～12:00	広幡地区防犯まちづくり 推進協議会メンバー 49名	全国自治会連合会副会長 藤枝警察地域安全協議会会長 静岡県防犯協会連合会理事 しずおか防犯まちづくり県民会議副会長 他 多くの肩書き… 広幡地区防犯まちづくり推進協議会 会長 小柳津 茂助 氏	・広幡地区防犯まちづくり推進協議会 ・静岡県県民部くらし交通安全室
山口県 宇部市 藤山校区	H21.11.28 11:00～16:00	藤山校区 コミュニティ協議会 20名	・藤山校区コミュニティ協議会 子ども専門部会 ・藤山小学校PTA ・地域ボランティア	・藤山校区コミュニティ協議会 子ども専門部会
広島県 広島市 西区 南観音学区	H21.11.29 9:00～12:00	社会福祉協議会、PTA 32名	西区南観音学区社会福祉協議会 会長 西区南観音学区連合会 会長 県公安委員会地域安全推進指導員 橋川 徹 氏	・南観音学区社会福祉協議会 ・南観音小学校 ・広島県警察本部 ・広島市教育委員会
広島県 広島市 西区 南観音学区	H22.1.24 9:00～11:00	社会福祉協議会、PTA 16名	橋川 徹 氏	・南観音学区社会福祉協議会 ・南観音小学校 ・広島県警察本部 ・広島市教育委員会
静岡県 藤枝市 広幡地区	H22.2.7 9:00～11:00	広幡地区防犯まちづくり 推進協議会メンバー 45名	小柳津 茂助 氏	・広幡地区防犯まちづくり推進協議会 ・静岡県県民部くらし交通安全室

※研修会で実施結果概要は、本報告書の(3)研究開発結果・成果に記載。

⑤教材開発の進捗

先述した②～④で示した研修会により、子どもを守る防犯リーダー指導力アップテキスト試作版・ビデオ教材試作版・研修会講師用テキスト試作版の検証を行い、その結果を反映した形で、これらすべての教材の完成版の開発に着手した。また、それと並行して、全国の自主防犯ボランティアや防犯に関する専門家への聞き取り調査も継続しており、防犯リーダーの防犯指導力基準表（Ver.1）の見直しと項目の整理、防犯コーディネータ指導力基準表（Ver.1）の整理も行った。

※詳細については、本報告書の(3)研究開発結果・成果に記載。

⑥防犯指導支援システム開発の進捗

・防犯特性分析システムおよびデータベースのプロトタイプ構築

平成20年度に実施した本システムの基礎検討結果を踏まえて、プロトタイプ構築および効果測定手法の設計を行った。様々な防犯活動者とシステムのユーザビリティについて意見交換を行い、支援システムのプロトタイプを構築した。データベースについては、平成20年度の成果であるデータベースのサンプルデータおよび教材Gの規準表・基準表をデータベース設計に反映した。また効果の見える化システムを設計し、プロトタイプを構築した。

今後は、本システムのプロトタイプ構築および効果測定手法の設計を踏まえて、本システムの本構築および効果測定手法の構築を行う。調査Gとの協力のもと、様々な防犯活動者とシステムのユーザビリティについて意見交換を継続的に行い、支援システムの本構築を行う。データベースについては、昨年度の成果であるサンプルデータに加え、実データの収集と分析を行いデータの充実を図る。また本システムの利用効果の測定手法に基づいた効果の見える化システムを構築する。

・防犯情報検索システムの自動化

平成20年度に構築したWeb情報検索（防犯情報検索システムの改名前）システムでは、データベースに登録されたホームページの更新の有無を確認するには、それぞれのページを実際に閲覧し、目視して更新の有無を確認するしかなかった。そこで平成21年度は、この作業をできるだけ自動化できるようにシステムの改良を行った。具体的には、まず既存の更新確認ソフトを用いて、前回調査時から更新のあったページ、リンク切れのページを検出した。そしてこの結果をデータベースに反映させるためのプログラムを実装した。これにより、更新があったページに対してのみ、実際にホームページを閲覧・登録項目の修正を行えばよくなり、作業効率の向上が図れた。また、防犯の専門家の意見を取り入れて検索項目を6カテゴリ53項目に分類しなおした。

・防犯力基準表・防犯指導力基準表に準じた教材のデジタルコンテンツ作成支援

教材Gが作成する試作版テキスト及びビデオ教材の一部を試行的にデジタル化した。具体的には、デジタル化するテキスト教材のスタイルシートの作成とビデオ教材のストーリーミング化、研修ツールの作成を行った。次年度は、本格的にすべてのテキスト・ビデオ教材を防犯遠隔学習システムで利用できるようにする。

・防犯指導効果調査システムの仮運用とその結果によるシステム修正

防犯指導支援システムは、地域やコミュニティに適した防犯活動を行うために、他地域やコミュニティの防犯活動内容と研修状況をまとめたものである。当該年度は特定地域での研修がスタートしたばかりなのでデータの蓄積とその表示法の改善に努めた。次年度は本システムを本格的に運用していくことになる。

⑦基礎調査など

・本プロジェクトの教材及び支援システムを活用した研修会実施による地域の防犯活動変容の調査（当該年度実施したものは、効果測定を目的とした事前調査）

日程：調査対象の各地域における第一回研修会の冒頭

手法：行動目標（具体的に観察できる望ましい活動）を例示し、達成度で4段階評価。この受講者の行動変容度から、研修会・教材・支援システムの有効性を評価する。（行動目標は、文部科学省選定の「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業の実践事例」及び、警察庁選定の「地域安全安心ステーション事業の実践事例」から抽出）当該年度においては、「事前調査」として実施した。本研究の最終年度には「事後調査」として同様の調査を実施し、その変容を分析して効果を測定する計画である。

尚、この調査は研修会参加者を対象とした調査であるが、調査対象地域の小学校PTAに対する防犯活動変容調査も次年度に計画している。

・既存の「防犯リーダーを対象とした研修会」に関する調査

日程：平成21年1月29日に一斉発送（返送締切：2月12日JAPET必着）

対象：47都道府県庁の該当部署（生活安全企画課等）

47都道府県警察本部の該当部署（生活安全企画課等）

合計94カ所に郵便にて発送

目的：現在、全国各地で実施されている「防犯リーダー養成講座」及びそれに類するものの実施状況、効果、将来的展望、課題について把握することを目的とする。この調査結果を、本プロジェクトが提案する「地域による自立型研修会」の必要性や有用性についての裏付けとして示す。

手法：対象機関を、防犯リーダーを対象とした研修会実施の状況別に以下の3つに分類し（対象機関自身が判断）、セグメント毎に調査用紙を準備した。

セグメント1継続的に実施している

セグメント2実施したことはある

セグメント3実施したことはない

内容：すべてのセグメントに対し、防犯リーダー研修会（及びそれに類する講習会等）実施の際に必要であると考えられる事項を30項目提示し、それらについて重要度を示してもらった。また、セグメント1・2に対しては、重要度を示した項目とまったく同じ内容の項目に対して、実際の達成度を示してもらった。尚、この30項目は、設問設計の際に6分類されており、それぞれを以下のように、本プロジェクトのコンセプトと関連させ、その有用性を測定できるようにした。

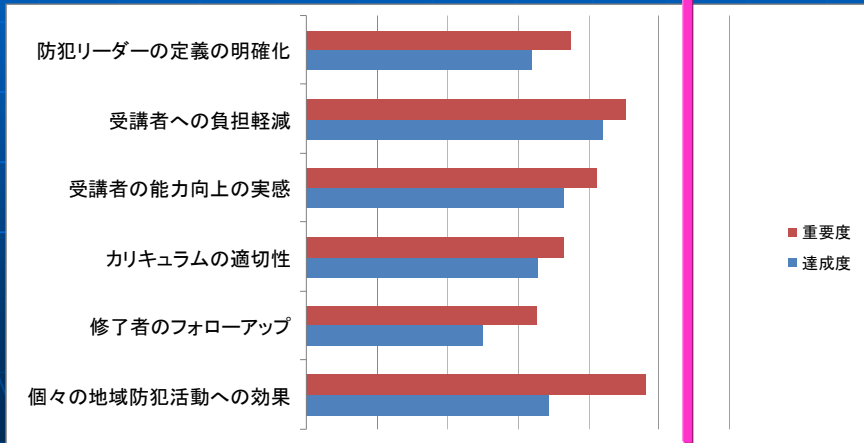
- a.防犯リーダーの定義の明確化（能力基準表の必要性）
- b.受講者への負担軽減（地域自立型研修会の必要性）
- c.受講者の能力向上の実感（防犯指導効果調査システムの必要性）
- d.カリキュラムの適切性（地域特性や現場の状況に即した研修カリキュラムの必要性）
- e.修了者のフォローアップ（防犯指導支援システムの必要性）
- f.個々の地域防犯活動への効果（地域自立型研修会の必要性）

結果 抜粋

防犯リーダー育成の現状

- 調査実施期間 平成22年2月
- 調査対象 47都道府県庁 + 47都道府県警察本部
- 回収率 48.9% (途中経過 回答数46件)

防犯リーダー研修会を実施する際に、重要だと思う項目カテゴリと、その達成度



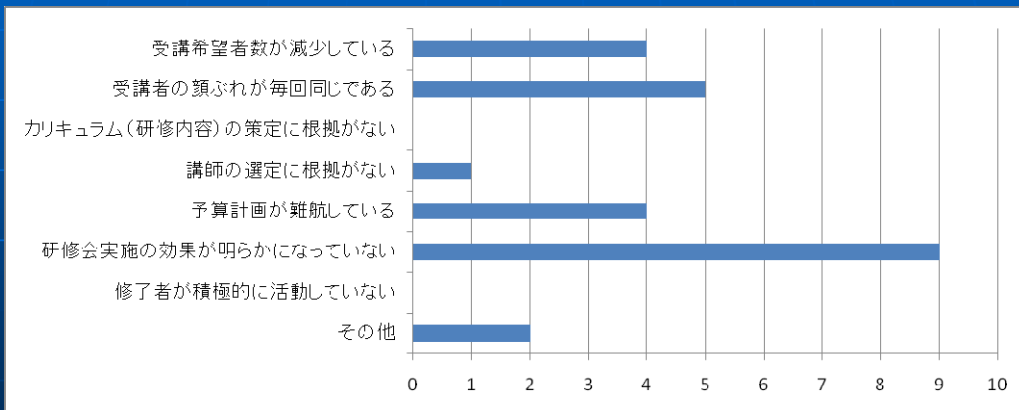
©JAPET・Sakamoto

満点ライン

防犯リーダー育成の現状

- 調査実施期間 平成22年2月
- 調査対象 47都道府県庁 + 47都道府県警察本部
- 回収率 48.9% (途中経過 回答数46件)

防犯リーダー研修会を実施する際に、実感している現状の課題



「防犯リーダー研修会」等を継続的に実施もしくは、過去に実施したことがある都道府県庁及び都道府県警察本部は27機関

©JAPET・Sakamoto

本調査の詳細な分析及び研究開発への反映については、次年度以降に実施。

⑧研修会の依頼及び、訪問調査の実施

正式な調査対象地域として継続的な研修会の実施と効果測定をする以外の地域で、防犯リーダーの防犯指導力（及び防犯力）育成のためのテキスト試作版の使用した研修会の協力依頼。また防犯リーダーの防犯指導力（及び防犯力）規準・基準表Ver.1の改良に必要な情報、資料を収集するため、警察署の安全課をはじめ、地域の防犯ボランティア活動の団体、学校地区協議会の安全関係のグループ、教育委員会、小学校などを訪問し、聞き取り調査を行った。また、それぞれの訪問先で研修用の教材やパンフレット、ポスター、ステッカーなどの収集、およびインタビュー取材（後述）を実施した。主な訪問先は次のとおり。

○広島大学大学院社会科学部研究科

日時 平成21年8月25日(火) 14:00-15:30

場所 広島大学大学院社会科学部研究科

対応 広島大学大学院社会科学部研究科教授：吉中信人氏

内容 平成20年度の成果報告

- ・平成20年度の成果報告
- ・コーディネータの役割について
- ・防犯ボランティアを継続させる取り組み事例について

○兵庫県尼崎市立大庄小学校

日時 平成22年3月8日(月) 10:00-12:00

場所 兵庫県尼崎市立大庄小学校

内容 地域での防犯対策の内容とテキストの活用の依頼

- ・子ども見守りたい推進会への参加と研修依頼
- ・来年度の研修内容の概要説明（新テキストの評価と研修カリキュラムの評価）

○京都府京都市立藤城小学校

日時 平成22年3月5日(金) 15:00-21:00

場所 京都府京都市立藤城小学校

内容 地域での防犯対策の内容とテキストの活用の依頼

- ・学校運営協議会への参加と研修依頼
- ・来年度の研修内容の概要説明（新テキストの評価と研修カリキュラムの評価）

○熊本県熊本市 オバパト隊

日時 平成22年3月11日(木)

場所 熊本市尾上二町内公民館（オバパト隊事務所）

対応 オバパト隊隊長：下川邦子氏、町内会会長：坂哉裕二氏

内容 地域での防犯対策の内容とテキストの活用の依頼

- ・コーディネータの役割について（プロデューサー、調整役としての役割ほか）
- ・地域の若年層の参加、入隊の基準、信頼関係などについて
- ・活動資金について
- ・青パト隊の利用のその後について
- ・防犯活動に関するモチベーションの維持について
- ・地域の中で子どもを守り育てるための、地域の人材活用について
- ・活動の5つの柱（防犯、リメイク、食育、誰にでもできる福祉、環境）
- ・小学校、中学校との連携について（挨拶運動、服装、子どもの名前を覚える）

- ・幼稚園、保育所との連携の可能性と取り組みについて など

○NPO法人エクスプローラー北海道

日時 平成22年3月15日(月)

場所 NPO法人エクスプローラー北海道

内容 地域での防犯対策の内容とテキストの活用の依頼

- ・コーディネータの役割について
- ・エクスプローラーの具体的な活動内容
- ・NPOとして活動する難しさと立場について
- ・認定制度について
- ・コーディネータに必要な能力・知識について
- ・ボランティアの意識を高める工夫について

○沖縄県警察本部 生活安全部

日時 平成22年3月17日(木)

場所 沖縄県警察本部

対応 沖中県警察生活安全部警視：新屋良徳氏、警部：眞喜志克也氏、
警部補：高島良徳氏

内容 地域での防犯対策の内容とテキストの活用の依頼

- ・コーディネータの役割について
- ・「安心ゆいメール」の効果について（11/11より新しいシステムが稼動中）
- ・「ちゅらさん運動」のその後の活動と達成度、効果について
- ・先島や離島での異なる特性と防犯対策について
- ・防犯ボランティア協議会の役割と活動について
- ・恩納村における観光シーズンの対応について
- ・カギのいない地域とするための環境や条件について
- ・県内のボランティア団体の活動と次世代育成や若い世代の参加について

○沖縄県警察八重山警察署

日時 平成22年3月19日(金) 10:00-12:00

場所 沖縄県警察八重山警察署

対応 沖縄県八重山生活署生活安全課警部補：波座真哲氏

内容 地域での防犯対策の内容とテキストの活用の依頼

- ・コーディネータの役割について
- ・自転車盗難について
- ・石垣島での地域ボランティアの活動状況について

○石垣島シルバーモーニングサービス

日時 平成22年3月19日(金) 7:30-9:30

場所 石垣小学校校区、及び石垣島シルバーモーニングサービス事務所

対応 シルバーモーニング隊：石垣氏、石垣小学校教頭先生、ほか

内容 地域での防犯対策の内容とテキストの活用の依頼

- ・石垣島シルバーモーニングサービスの具体的な活動の取材
- ・コーディネータの役割について

(3) 研究開発結果・成果

①研修会講師用テキスト（試作版）の開発

テキストに対応した指導者用テキストを作成した。研修会講師用テキストには研修を進める際に必要な資料、参考ホームページのURL等を明記してある。

The collage contains the following elements:

- Top Left:** Two bar charts. The first is titled '防犯ボランティア団体の活動内容 (複数回答) (平成16年警察白書より)'. The second is titled '活動に参加するに当たって団体を抱った経緯 (複数回答) (平成16年警察白書より)'. Both charts show data for various categories.
- Top Right:** A text box titled '保険への加入'. It discusses insurance for volunteers and mentions that some organizations have insurance, while others do not. It notes that insurance is not always provided for all activities.
- Middle:** A large text page titled '14 地域の組織づくりと活動の推進'. It includes sub-sections like '地方に「取り組もう!」' and '役割を決めよう!'. It discusses the importance of local organizations and the role of volunteers.
- Bottom Left:** A section titled 'シンボルの例' (Examples of Symbols). It lists several examples:
 - 広島県防犯キャラクター「もしかケン」
 - 京都市立藤城小学校 安全委員会
 - 尼崎市立大庄小学校
 - 京都市立藤城小学校 安全委員会
- Bottom Right:** A list of activities and organizations:
 - ③被保険者(補償の対象となる方): Lists conditions for being covered, such as being a volunteer or having a specific role.
 - ④対象となるボランティア活動: Lists activities like 'ボランティアグループの会則に則り企画、立案された活動' and '社会福祉協議会に登録されていること'.
 - ⑤次ボランティア活動は補償の対象となりません: Lists activities like '山岳救助ボランティア活動' and '銃器を使用する番歌隊ボランティア活動'.

②研修用ビデオ教材の制作

防犯リーダー指導力アップテキストに対応したビデオ12本を作成した。ここでは、防犯リーダーがボランティアなどの方々を指導する上で必要となる基本的な考え方や知識、身につけておくべき技能などについて3～8分のビデオ内容にまとめた。

1. 登下校の見守りとあいさつ運動
2. こんな子が狙われている
3. 防犯ブザーの効果と留意点
4. 家の中でも気をつけて
5. どこが安全?どこが危険?
6. 地域安全マップ
7. 学校での防犯教育
8. 地域での組織作りと連携
9. 広がるネット犯罪
- 10.防犯パトロールの進め方
- 11.子ども110番の家
- 12.防犯活動の推進

③防犯リーダー指導力アップテキスト 作成

4地域での研修会とトライアウト研修会でのアンケート結果をもとに防犯リーダーテキストの作成を行った。本研究が目指す防犯リーダーにとって身につけて欲しい基本的な項目をまとめている。

1. 登下校の見守りとあいさつ運動
2. 防犯パトロールの進め方
3. こんな子が狙われている
4. 防犯ブザーの効果と留意点
5. 家の中でも気をつけて
6. どこが安全？ どこが危険？
7. 地域安全マップ
8. 地域の特性と防犯対策
9. 学校での防犯教育
10. 地域での組織作りと連携
11. 防犯組織の運営と課題解決
12. 子ども110番の家
13. 防犯活動の推進
14. 少年団も頑張っている
15. 子供の理解とアフターケア
16. 広がるネット犯罪
17. 携帯電話
18. サイバー犯罪の理解と対応
19. さまざまな防犯器具の使い方
20. 国の施策と条例の理解

④防犯用語事典の試作

子どもの安全に関する用語50項目を抜粋し、各項目を解説した辞典を作成した。作成項目は以下の通り。

・いかのおすし・子ども110番の家・安全マップ・危険箇所・青色回転灯パトロール・声かけ事案・ながらパトロール・ヒヤリハット・自主防犯活動・スクールガードリーダー・出会い系・不審者・防犯標語・回避能力・危機管理マニュアル・スクールサポーター・違法サイト・セーフティステーション・児童ポルノ・防犯条例・割れ窓理論・防犯担当部署・青少年インターネット環境整備法・インターネットカフェ・学校警察連絡協議会・交番相談員・子ども緊急通報装置・臨床心理士・スクールカウンセラー・情報モラル・フィルタリング・電子メール・ネットいじめ・匿名性・フィッシング・ネット犯罪・デジタル万引き・安全・安心まちづくり・優良防犯ブザー推奨制度・少年警察ボランティア・防犯リーダー

⑤調査対象地域における研修会 実施結果

各地域における第一回目の研修会は、本プロジェクトにおいても、地域においても、非常に手探りである部分が多かったが、実施後、様々なことが明確になり、次回以降の研修会について見通しを立てることができた。

第一回目の研修会とは平成21年11月に4地域で実施した研修会で、本プロジェクトが主催し、講師も各地域の指導的立場の人物（自治会連合会・会長や防犯まちづくり協議会・会長など）に依頼した形だった。彼らはすでに独自の講義スタイルをある程度確立しているため、テキスト教材試作版も研修会講師用テキスト試作版（①で示したもの）も参照する程度にとどまり、独自の講義を展開した。これにより、本来の目的であった「テキスト試作版及び、研修指導者用テキストの検証」をすることを計画通りに達成することはできなかったが、新たな知見をテキスト教材や研修指導者用テキストに反映するために抽出することはできた。

これに対して平成22年1月以降2地域で実施した第二回目の研修会においては、第一回研修会におけるアンケートにより「講師志願者」の存在が明確になっていたため、地域で「講師をやってみたい」という方に講師を務めていただき、地域主導で研修会を実施した。また、講師への支援として、研修会講師用テキストを活用してもらい、これを検証した。

さらに、来年度からは、各地域の状況に即した研修内容（カリキュラム）の決定に際し、防犯指導支援システムを導入し、本格的な「地域の自立型研修会」を実施し、教材及び支援システムの検証を行う予定である。

また、PDCAサイクル始動にあたっては、本プロジェクトの教材及び支援システムを活用した研修会実施による地域の防犯活動変容の事前調査を実施した。

（結果は⑦を参照。尚、事後調査は、最終年度に実施予定であり、これを本プロジェクトにおける効果測定とする計画である。）

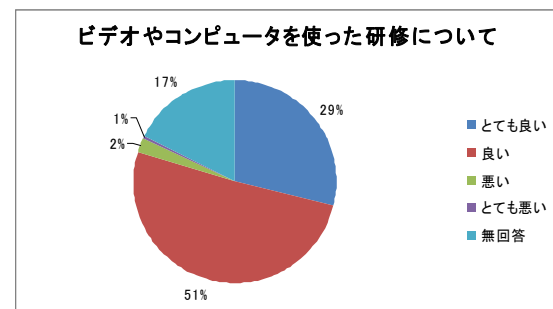
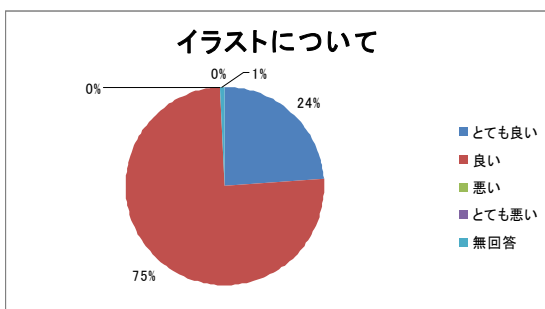
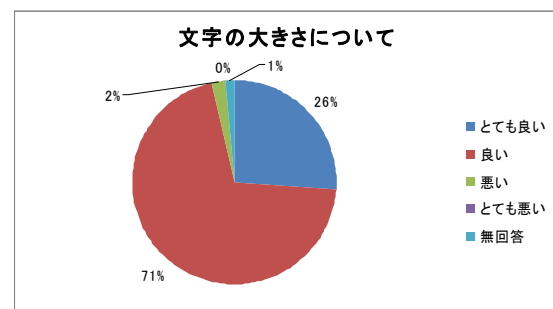
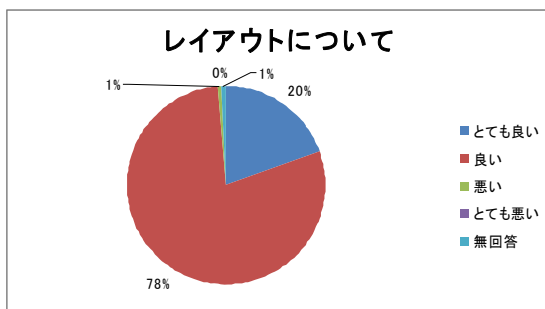
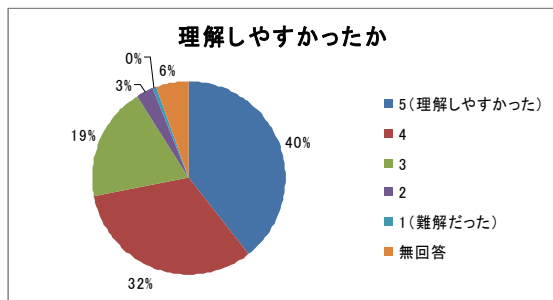
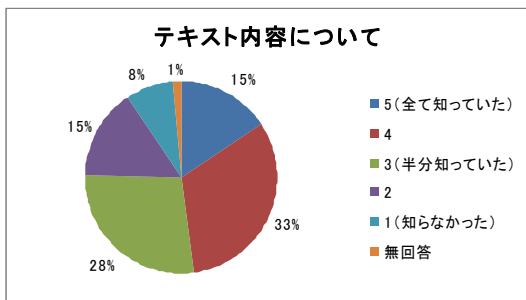
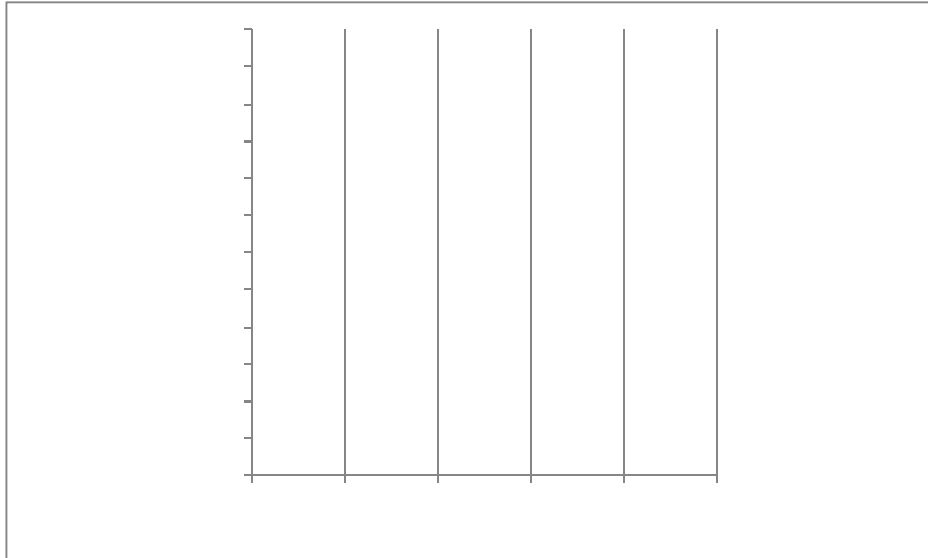
尚、これらの研修会においては、受講者に教材群及び防犯指導効果調査システムに関するアンケート調査を実施し、意見を抽出することができたので、来期以降の教材開発及び支援システム開発にフィードバックし、成果物創出に向けた研究開発を進める。

（アンケート調査結果は、⑥⑪を参照。）

⑥教材に関するアンケート調査の実施

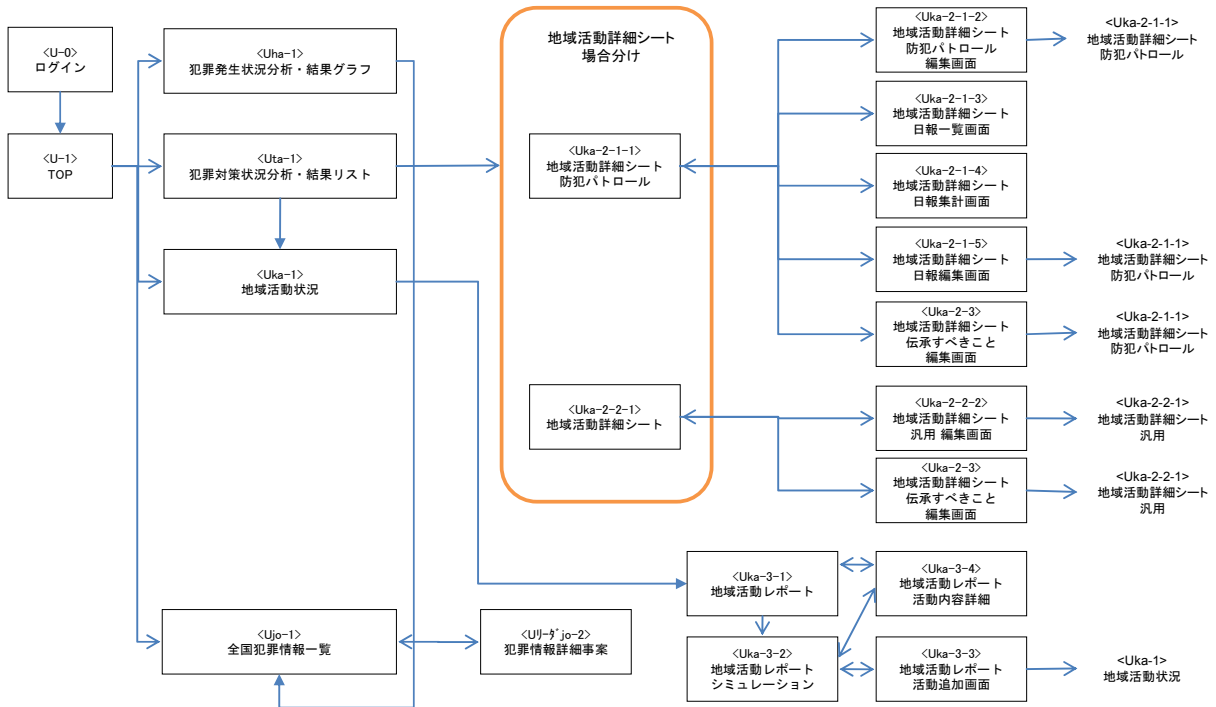
調査対象地域におけるすべての研修会において、テキスト教材試作版・ビデオ教材試作版に関するアンケート調査を実施した。その結果概要は以下の通りである。

活動年数と防犯リーダーとしての意識の高さ（自己評価）

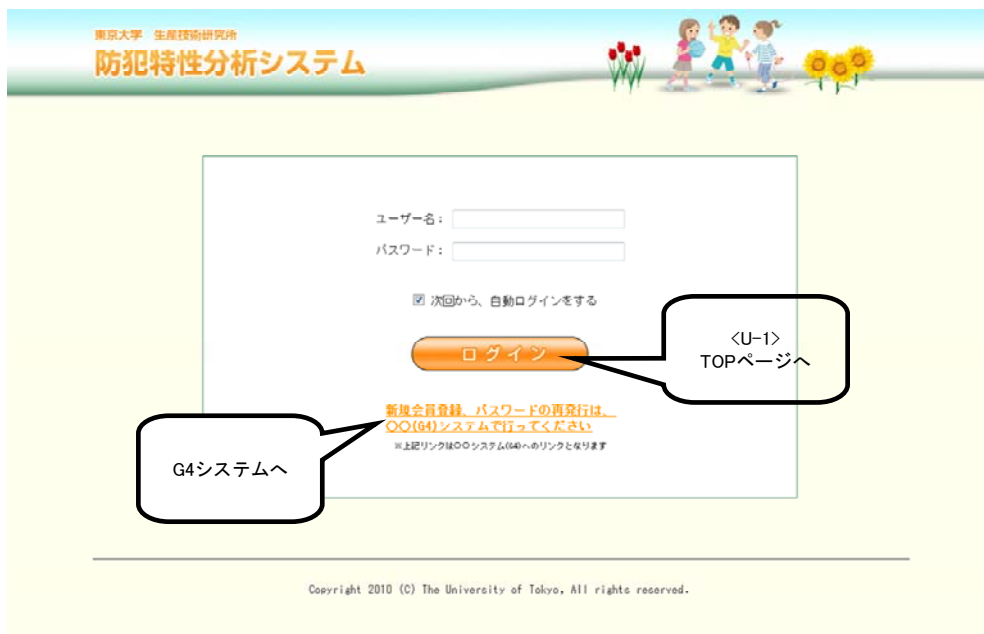


⑦分析システムおよびデータベースのプロトタイプ構築

以下に、ユーザー側のサイトマップを示す。全てのシステム画面は「Uka-2-1-1」などのIDで管理されている。システムの画面の一部もあわせて以下に示す。



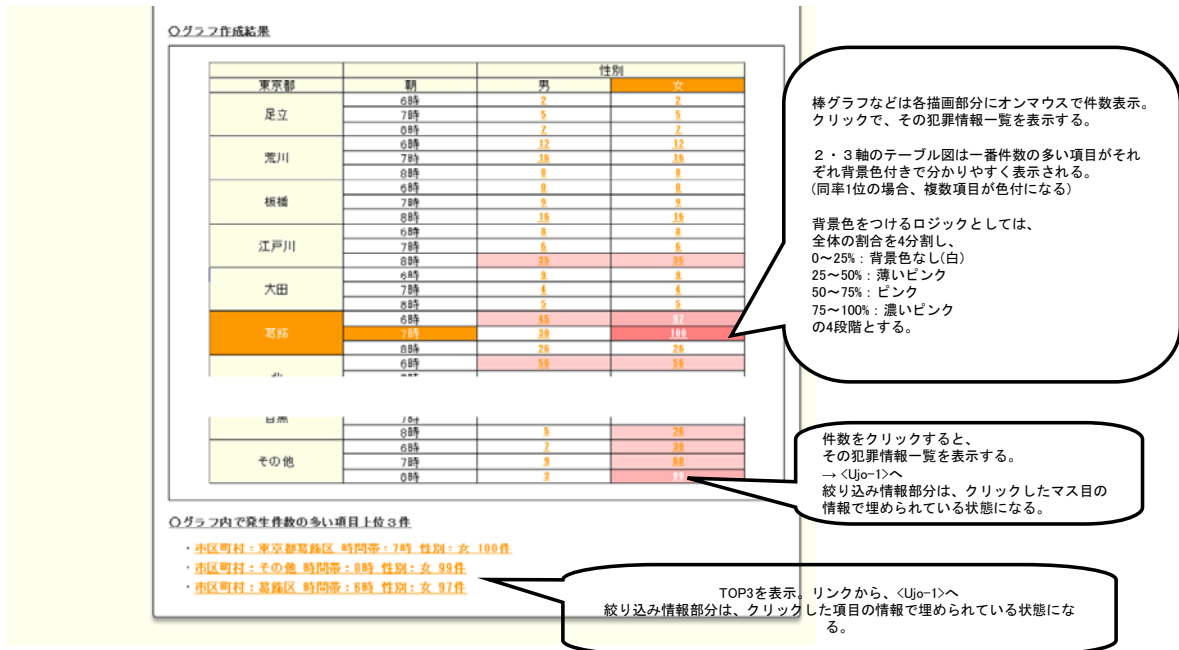
ユーザー側のサイトマップ



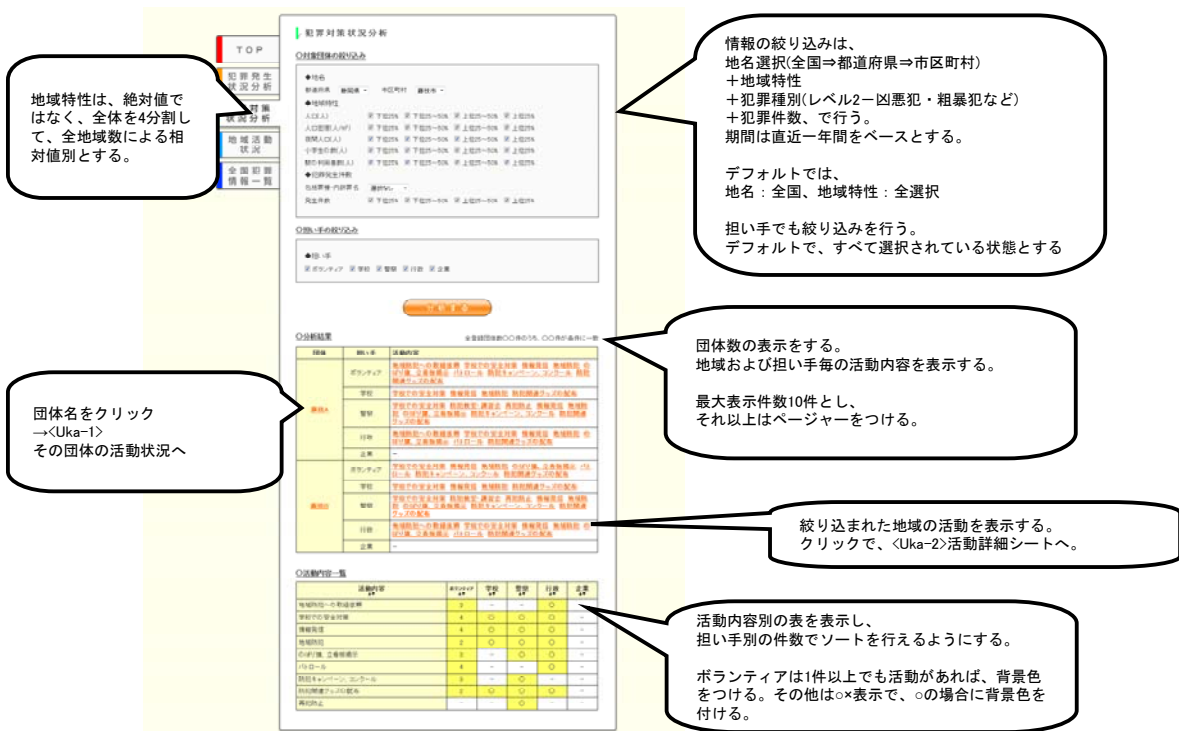
<U-0>ログインページ

<U-1>TOPページ

<Uha-1>犯罪発生状況分析 1



<Uha-1>犯罪発生状況分析 2



<Uta-1>犯罪対策状況分析

The screenshot shows a web application interface for 'Local Activity Status' (地域活動状況). On the left is a navigation menu with 'TOP', 'Crime Status Analysis', 'Crime Policy Analysis', 'Local Activity Status', and 'National Crime Information Overview'. The main content area is titled 'Local Activity Status' and includes a search filter for 'Organization' (団体検索) with details like 'Organization Name: Local Police Office', 'Established: Heisei 18', 'Members: 10', 'Activity Area: Akihabara, Tokyo', and 'Activity Frequency: Monthly 20 times'. Below this is a filter for 'Activity Status' (活動一覧) with checkboxes for 'Active', 'On Hold', and 'Not Implemented'. The main content is organized by organization type: 'Volunteers' (ボランティア), 'Schools' (学校), 'Police' (警察), 'Municipal Government' (行政), and 'Municipal Government' (行政) again. Each organization type has a set of buttons for 'Patrol', 'Map Creation', 'Child Protection', 'Image Purification', and 'Information'. At the bottom, there are buttons for 'Add Activity' (活動追加) and 'Display Activity Report' (活動レポート表示), with callouts linking to reports like '<Uka-3-2> Activity Detailed Report' and '<Uka-3-1> Activity Detailed Report'.

団体情報を表示する。
 (G4システムから引っ張れる情報を表示)

実施中・休止中・未実施の活動をすべて表示。
 色で区別をする。並び順は実施中(リンク有)・休止中(リンク有)・未実施の順とする。

ボランティア、学校、警察、行政、企業
 という担い手別に、それぞれの活動を表示する。
 (担い手はこの5種類に分類)

実施中活動内容をクリック
 →防犯パトロールは<Uka-2-1-1>へ
 それ以外は<Uka-2-2-1>へ

同じ活動内容でも、活動詳細シートのデータは
 担い手別に存在する。

<Uka-3-2>
 活動詳細レポートへ

活動追加

活動レポート表示

<Uka-3-1>
 活動詳細レポートへ

<Uka-1>地域活動状況

本システムでは、各防犯活動に対し、「活動の概要、活動日報、学習・研修項目、伝承したいナレッジ」が記述された「活動詳細シート」を定義し、データベース化している。この活動詳細シートの学習・研修項目に、教材Gの規準表・基準表をデータベースとして反映させ、教材やカリキュラムを連携させた。これにより各活動に必要な知識を集約し、効果的な学習を支援している。

ポップアップ画面で、
 本当に休止(再開)しますか？

 と表示して、「はい」なら休止(再開)を実行する

どこの地域の情報なのか、表示する。

最終更新日、最終更新者(ユーザーID/ユーザー名)を表示する。
 ただし、外部団体からは、ユーザー名は非表示にする。

休止中の活動の場合、[活動を再開する]ボタンに切替え

日報機能を追加する。最新のものをあらかじめ表示。
 内容は、日付+報告者+方法+時間帯+エリア+人数+気づいたこととする。

項目を編集する

活動を休止する

＜Uka-2-1-2＞編集画面へ

＜Uka-2-1-3＞日報履歴画面へ

＜Uka-2-1-4＞日報集計画面へ

＜Uka-2-1-5＞日報登録画面へ

＜Uka-2-1-1＞地域活動詳細シート 防犯パトロール

○知識・手口

規準表	規準表<41>自玉防犯活動に対する適切な指導・助言を行うことができる。参照テキスト11章
ビデオ eラーニング	PDFリンクなど

○伝承すべきこと
 最終更新日2010年3月30日 最終更新者: 藤枝町内会 / fujeda

テキスト	コメント3丁目の歩道橋下は死角となっています。必ず確認してください。青島地区において子ども見守りカメラシステム運用が始まりました。(2010年2月26日)
画像	3丁目の歩道橋下 下 子ども見守りカメラシステム ラシシステム
参照URL	静岡県警 薬技監査室 藤枝市役所 子ども見守りカメラシステム運用始まる 子どもの危険回避研究所

それぞれのコンテンツに遷移するための単純なリンクを設置(外部リンクのみ)。管理側でコンテンツタイトルとURLを管理して、表示させる。

最終更新日、最終更新者(ユーザーID/ユーザー名)を表示する。
 ただし、外部団体からは、ユーザー名は非表示にする。

画像のアップロードについて。画像については、横幅112px・縦幅84pxにして、サムネイル表示。クリックするとアップロードしたオリジナル画像をポップアップ表示。

編集する

＜Uka-2-3＞伝承すべきこと編集画面へ

戻る

＜Uka-2-1＞地域活動詳細へ

伝承すべきことを追加。内容は、テキストエリア(フリーメッセージ)+画像(5つ)・タイトル(30文字以内)+参照URL(5つ)・タイトル(30文字以内)とする。
 誰でも編集可能。履歴は表示せず、最新のものだけ表示される。

＜Uka-2-1-1＞地域活動詳細シート 防犯パトロール

日々の活動では、活動詳細シート中の、「伝承したいこと」や「活動日報」を記入することで日々の活動を記録できる環境を構築した。日報に関しては、活動時間を自動集計することで防犯リーダーの負担を軽減することが可能となる。

地域活動詳細シート
 ○日報集計

期間(月単位)で絞り込めるようにする。
 デフォルトでは、最近1年間とする。

方法、時間帯、エリア、人数(1月当たりの活動延べ人数)のグラフを月毎に件数を集計して表示する。

方法

時間帯

エリア

人数

戻る

<Uka-2-1-1> 詳細シート画面へ

<Uka-2-1-4>地域活動詳細シート 日報集計画面

地域活動詳細シート
 ○日報登録確認

日付

日	月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31	

方法 徒歩・徒歩、わんわん

時間帯 夜(18:00-24:00):夜間

エリア エリア3:白鷺

人数 5人

気づいたこと 特になし

戻る

登録する

登録確認画面へ。

TOP

○日報登録

日付 2010年3月1日

方法 徒歩・徒歩、わんわん、自転車

時間帯 夜(18:00-24:00):夜間

エリア エリア3:白鷺

人数 5人

気づいたこと 特になし

戻る

登録する

<Uka-2-1-1> 詳細シート画面へ

登録確定。
 <Uka-2-1-1> 詳細シート画面へ

<Uka-2-1-5>地域活動詳細シート 日報登録画面

⑧システムのプロトタイプを用いたサンプルデータの分析およびデータベース設計への反映

サンプルデータとして、安全安心メールをデータベースに反映させ、本システムで分析できる環境を構築した。以下の図は、静岡県藤枝市の犯罪発生特性を分析したサンプルである。これは、2008年から2009年の安全安心メールを取得し、WBSをつけたものであり、空間と罪種の関係を分析した事例である。

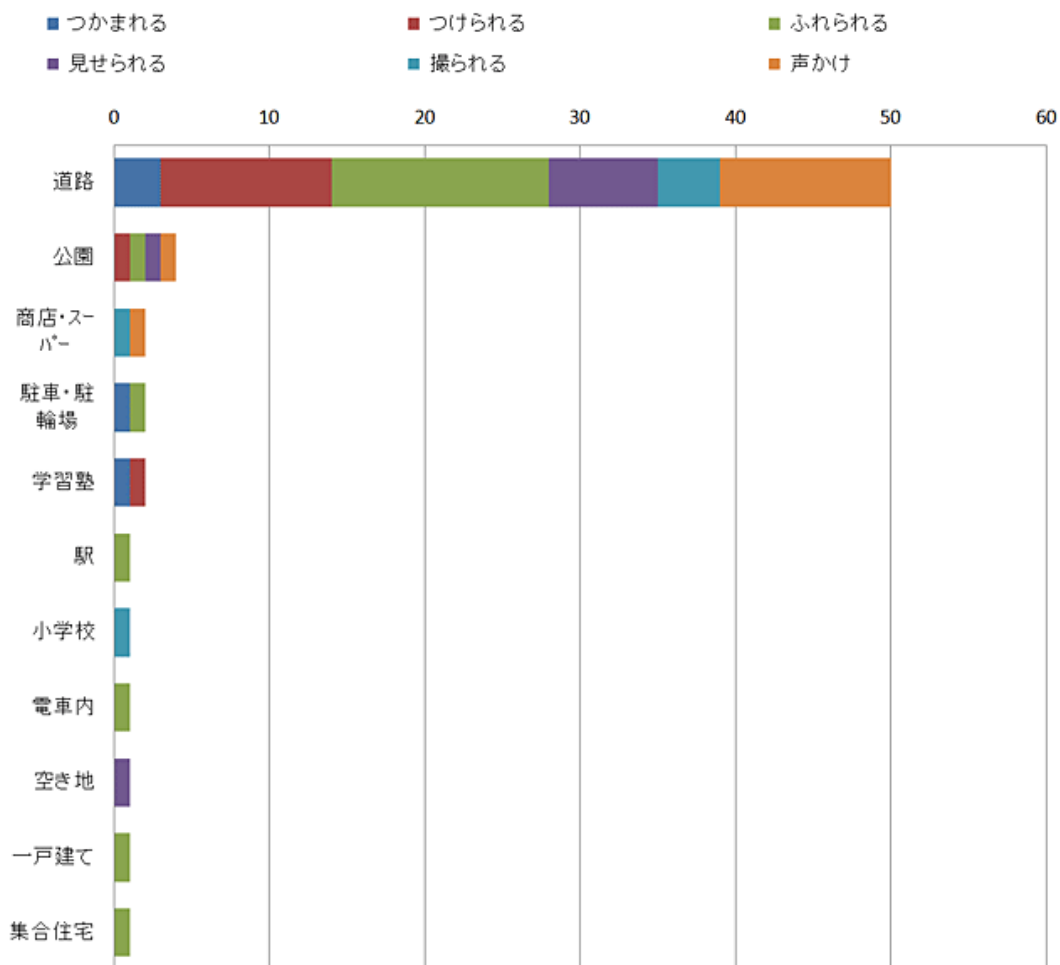


図 犯罪発生空間と罪種の関係

⑨効果測定手法に基づく効果の見える化システムの設計

現在の防犯活動を体系的に記述し、定式化するために、犯罪対策閣僚会議でまとめられた「犯罪から子どもを守るための対策」を利用し、各対策の担い手、対策フェーズ、ソフト・ハードの種別を付加することで活動を分類した。これは、最近の児童を被害者とする事件の発生にかんがみ、登下校時の児童の安全確保のための取組、その他犯罪から子供を守るための対策としてまとめたものである。なお、担い

手は、ボランティア、学校、警察、行政、企業とし、対策フェーズは、予知・警報、事前準備、抑止力、応急、評価、回復とした。

次に、各対策に対し、例えば、塾に通っている子供に効果が限定される防犯活動なのか、学校の登下校時の全ての子供に効果をもたらすのかといった、その活動を実施することで効果を与える子供の範囲、各担い手の業務の範囲の内外、そして、複数の担い手がいる場合の担い手間での優先順位という視点で重み付けを行った。全ての防犯活動を地域全体で実施した状況を「あるべき姿」と定義した。各項目で「あるべき姿」の形状が異なっているのは、重みの絶対値を表示しているためであり、これは担い手やフェーズごとの期待度を意味するといえる。例えば、担い手のボランティアと警察では、地域で期待されている役割が異なり、ボランティアは抑止力、予知・警報が高く、警察は事前準備、応急、回復を期待されていることを示している。

本システムでは、新たに活動を実施する場合、どの活動を実施すると、どの担い手の、どのフェーズの、どの種類の活動が高まるのかシミュレーションする機能を持たせており、地域全体で最適な活動を検討することが可能である。

ブラウザの印刷機能を利用して、CSSの変更のみを行い、HTMLを印刷する。

団体情報を表示する。

一番大きな最大値を持った項目を基準として、目盛りを決定する。
 (例えば、ボランティアの最大値50、学校の最大値60、警察の最大値70の場合、警察の最大値である70がグラフの一番外側になる)

各々の項目の最大値の表示は数字でも表示する。

現在実施中の活動一覧。
 (並び順はマスタID順とする)

活動内容をクリック
 → <Uka-3-4>活動内容詳細

項目と点数を表示する。
 点数は、現在値 / 最大値、
 という表示にする。

シミュレーション活動の追加

<Uka-3-2>
 シミュレーション
 表示へ

<Uka-3-1>地域活動詳細レポート 現在の状況

上段が現在の状態、下段がシミュレーション。

チェックしたものが、シミュレーション、活動の実施に反映される。すでに実施中の活動は、チェックボックス非表示。

実施中、休止中アイコン表示

担い手、対策種類、対策時期、重みで、対策活動の絞り込みができる。デフォルトでは、すべて選択状態なので、そのままボタンを押せば、すべて表示される。

ボタンをクリックすると、活動一覧が表示される。

絞り込まれた対策活動一覧。
 活動内容をクリック → <Uka-3-4>活動内容詳細

シミュレーション部分更新するとともに、グラフ表示部分にスクロールする。

<Uka-3-3> 活動追加画面へ

<Uka-3-2>地域活動詳細レポート シミュレーション画面

⑩防犯情報検索システム（自動化）



構築したシステムは、データが登録されている関係機関にリンクの許可を得て、2010年1月から一般公開している。

防犯情報検索システムの検索画面

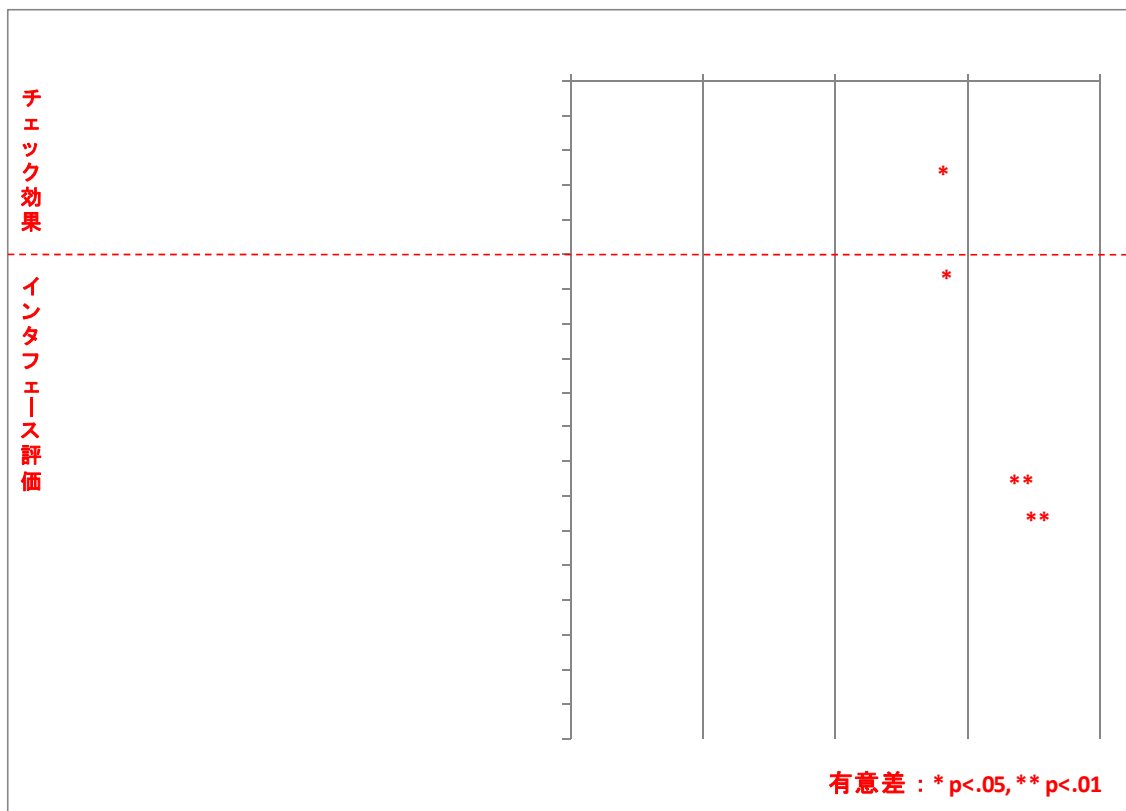
⑪防犯指導効果調査システムの仮運用とその結果によるシステム修正

防犯指導効果調査システムは、主たる機能として防犯力基準表・防犯指導力基準表に準じた教材を利用した学習前・後の自己評価データを可視化するものである。当該年度は調査対象4地域において仮運用とアンケート調査（検証）を行った。

アンケート調査は、東京都足立区、静岡県藤枝市、山口県宇部市、広島県広島市の4地域で行われた第1回の研修会で行った。足立区の半数と宇部市がパソコンで、足立区の半数と藤枝市、広島市がマークシートでチェックを行った。なお、「b.インタフェースの効果」については、足立区でのみ聞いて後は省略した。以下の表に4地域で行ったアンケート調査をまとめた。

	a.自己チェックの効果		b.インタフェースの効果		c.レーダーチャートの効果	
	パソコン	マークシート	パソコン	マークシート	パソコン	マークシート
足立区	○	○	○	○	○	○
藤枝市		○	—	—		○
宇部市	○		—	—	○	
広島市		○	—	—		○

○システムの効果（足立区のみ）



「1.そう思わない」「2.あまり思わない」「3.どちらでもない」「4.まあ思う」「5.そう思う」で評価。*印の項目は、「5.そう思わない」「4.あまり思わない」「3.どちらでもない」「2.まあ思う」「1.そう思う」に修正して集計

足立 a. 自己チェックの効果

平均3点以上の概ね良好な評価であった。

パソコン版とマークシート版では、「研修に対する不安を解消する」でパソコン版が有意に高い評価であった。

b. インタフェースの評価

概ね平均3点以上の良好な評価であった。

平均が3以下のものは「楽しかった（マークシート版）」「分からない言葉が多く出てきた（パソコン版）」の2項目であった。前者はマークシートの単調さを、後者はシステムメニュー部分等の言葉のことを示していると考えられる。

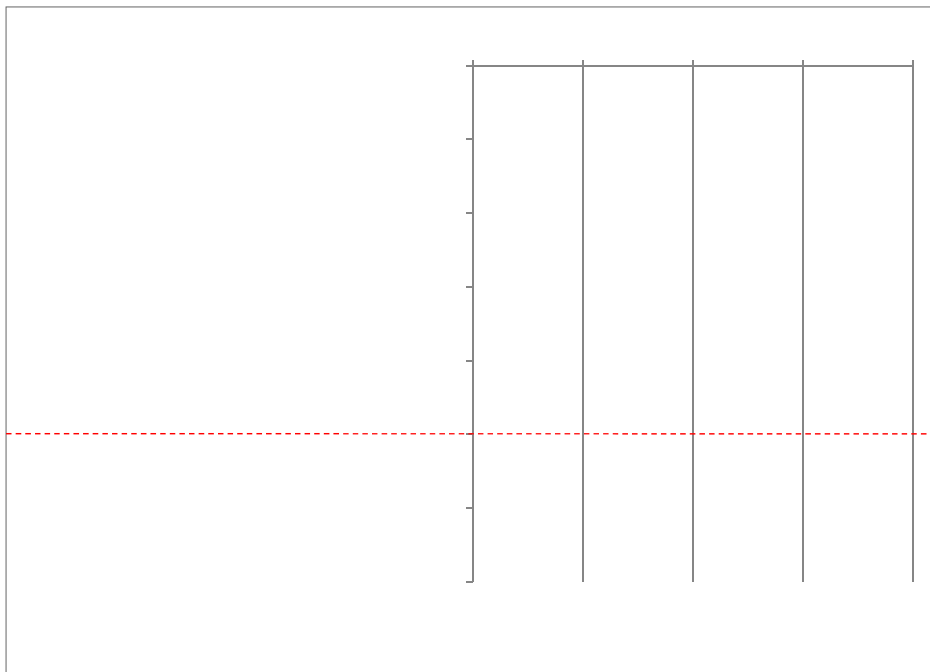
パソコン版とマークシート版で有意差があったのは、「楽しかった」「シンプルでわかりやすかった」「使い方はすぐに理解できた」の3項目で、いずれもマークシート版の方が低い評価であった。

c. レーダーチャートの評価

概ね平均3点以上の良好な評価であった。

パソコン版とマークシート版では、特に有意な差は見られなかった。

○自己チェックの効果およびレーダーチャートの効果（4地域総合）



「1.そう思わない」「2.あまり思わない」「3.どちらでもない」「4.まあ思う」「5.そう思う」で評価

4 地域総合

a. 自己チェックの効果

全ての研修会で平均3点以上の概ね良好な評価であった。

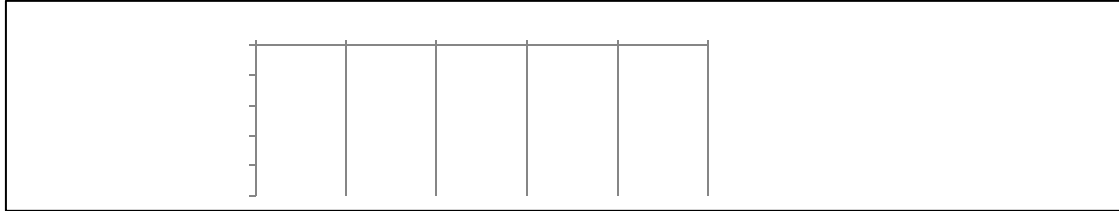
また、「研修に参加する意義を持つ」「研修に対する期待を持つ」「研修に対する不安を解消する」について、パソコン版の方で評価が高い傾向が見られた。

c. レーダーチャートの評価

全ての研修会で概ね平均3点以上の良好な評価であった。

宇部市での評価が高い傾向が見られた。(次点が足立のパソコンを用いたグループであった。)

○パソコンの使用経験



使用・不使用が半々程度で、自信はない人が多かった。

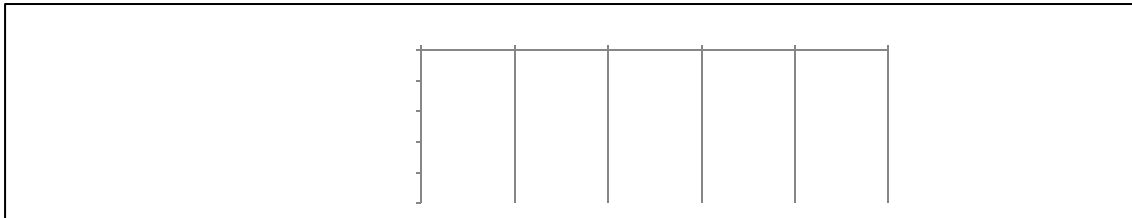
また、広島市では「よく使用しており、操作の自信もある」人が多い傾向が見られた。

○マークシートの使用経験



使用・不使用が半々程度で、広島市では若干未経験者が多い傾向が見られた。

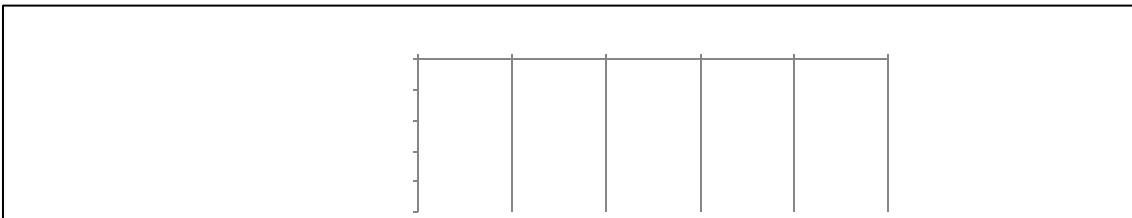
○結果を紙に印刷することの効果



「役に立つ」「少し役に立つ」が50%以上で、概ね良好な評価であった。(平均にすると3.5程度)

宇部市での評価が若干高い傾向が見られた。パソコン版とマークシート版の差はみられなかった。

○後日パソコンで結果を見直すかどうか



「見返す」「見返さない」が同数程度で、意見がわかれた。

宇部市で「見返す」という人が若干多い傾向が見られた。パソコン版とマークシート版の差はみられなかった。

(4) 開催したワークショップ、シンポジウム、会議等の活動

年月日	名称	場所	概要
21.4.28	第一回リーダー会議	JAPET	各グループからの進捗報告、全体としての情報共有
21.5.22	実証地域における説明会	港区立六本木中学校	港区南山地区に向けた本プロジェクトについての説明と、具体的な協力要請をした
21.5.27	調査G・支援G合同会議	JAPET	防犯指導効果調査システムに求められる機能の検討、幼稚園の防犯対策と防犯意識に関する質問紙調査について
21.6.5	調査G・教材G合同会議	目白大学	調査対象地域における研修会の実施について
21.6.11	教材G会議	目白大学	著名人・専門家インタビュー対象者の決定、テキストの配布、基準表の整理、今年度計画表の見直し、分析Gとの会議について、テキスト目次案
21.6.12	調査G・分析G・教材G合同会議	目白大学	防犯特性分析システムと教材との関連づけについて
21.6.16	調査G・分析G合同会議	東大 生産技術研究所	防犯特性分析システムのデータベース蓄積について
21.6.22	第二回リーダー会議	東大 生産技術研究所	各グループからの進捗報告、全体としての情報共有
21.6.25	教材G会議	目白大学	藤城研修会(6/27)についてインタビュー先について
21.6.25	宇部市藤山校区防犯リーダー育成研修会 第一回準備委員会	宇部市藤山校区ふれあいセンター	本プロジェクトの概要説明と、研修会実施に向けての準備について
21.6.27	子どもを守る防犯リーダー指導力アップ研修会(トライアウト)	京都市立藤城小学校	本プロジェクトの概要を説明し、「子どもを守る防犯リーダー指導力アップテキスト」と「防犯指導効果調査システム」のトライアウトを行い、ユーザビリティを調査した。
21.7.2	教材G会議	目白大学 教育研究所	次回研修会の予定テキストについて
21.7.3	実証地域におけるヒアリングを目的とした研修会	港区立南山小学校	PTA実行委員会の定例会議の時間を1時間ほどいただき、テキストの試作版テキストについて説明し、意見収集した。
21.7.3	教材G会議(藤城小学校運営協議会会長など協力者3名参加)	デスクトップ品川港南口店 会議室	研修会の反省、テキストの内容検討、ビデオ教材の提供方法、事前事後チェック、次回の研修会案、

			指導者マニュアルの内容検討
21.7.10	調査G・分析G 合同会議	東大 生産技 術研究所	防犯特性分析システムの進捗状況 の確認と、使用例ストーリーの検 討
21.7.15	調査G 会議	JAPET	プロジェクト内におけるグループ 同士の連携・統括について
21.7.16	教材G会議	目白大学 教育研究所	夏休みの訪問先 配布用研修プログラム
21.7.16	調査G・教材G 合同会議	目白大学 教育研究所	南山小学校におけるテキスト教 材・ビデオ教材に関するヒアリン グ結果報告と、今後の研修会実施 方法の検討
21.7.21	教材G会議	目白大学 教育研究所	取材先とそれぞれの取材項目
21.7.23	全体会議（長時間 会議）	JAPET	マイルストーンの整理・確認、地 域折衝状況、トライアウト研修会 実施報告、現状の課題とその解決 に向けた討議
21.7.28	教材G会議	目白大学 教育研究所	リーダー会議内容報告 訪問先について テキスト執筆者候補について 夏期業務について
21.7.29	調査G 会議	JAPET	プロジェクト全体のマイルスト ーンについて（ツリーマップの作成）
21.7.30	全体会議	JAPET	今年度の課題・マイルストーンに ついて
21.8.3	第三回リーダー 会議	東大 生産技 術研究所	進捗報告会に向けての最終調整
21.8.4	教材G会議（藤城 小学校運営協議 会会長など協力 者3名参加）	デスクトップ品 川港南口店 会議室	藤城研修会（9月12日）の内容につ いて、リーダーとコーディネータ の定義
21.8.17	調査G・分析G 合同会議	東大 生産技 術研究所	リーダー・コーディネータ パタ ーンの地域特性について
21.8.21	調査G・支援G 合同会議	名古屋大 留 学生センター	地域の防犯活動ロードマップにつ いて、HPの公開、4つのシステム の統合について
21.8.27	特別リーダー会 議	東大 生産技 術研究所	進捗報告会プレゼンリハーサル
21.8.31	調査G・分析G 合同会議	東京未来大学	効果測定指標について、防犯特性 分析システムにおける「地域防犯 のあるべき姿」について
21.9.5	教材G会議	目白大学 教育研究所	藤城研修会（9月12日）につい て ネット安全マップについて 支援Gとの連携について
21.9.8	教材G会議	東京グリーン	広島研修会について

		パレス 1F レストラン	藤城研修会（9月12日）について 今後の取材について
21.9.12	子どもを守る防 犯リーダー指導 力アップ研修会 （トライアウト）	京都市立 藤城小学校	本プロジェクトの概要を説明し、 「子どもを守る防犯リーダー指導 力アップテキスト」と「防犯指導 効果調査システム」のトライアウ トを行い、ユーザビリティを調査 した。
21.9.15	調査G・分析G・ 支援G合同会議	東大 生産技 術研究所	本PJの今年度の課題（3月の外部 評価委員会へのプレゼンに向け て）
21.9.16	教材G会議	目白大学 教育研究所	支援Gのシステムとの連携
21.9.16	調査G・分析G・ 支援G合同会議	東大 生産技 術研究所	専門家を招いての防犯分析シス テムについての検討
21.9.24	教材G会議（藤城 小学校運営協議 会会長など協力 者3名参加）	デスカット品 川港南口店 会議室	中間報告について 指導者用テキストについて
21.9.28	調査G会議	JAPET	効果測定指標について
21.10.1	調査G・分析G・ 教材G合同会議	目白大学	効果測定指標と規準表・基準表と の関連について
21.10.2	調査G会議	JAPET	効果測定指標について
21.10.15	教材G会議	目白大学 教育研究所	今後の活動について（基準表・ビ デオ・赤本など）
21.10.22	教材G会議	目白大学 教育研究所	テキスト（赤本）の作成について 資料の購入について 基準表の見直し
21.10.23	第四回リーダー 会議	東大 生産技 術研究所	進捗報告会の結果を受けて グループ同士の協働体制について
21.10.29	教材G会議	目白大学 教育研究所	指導者用テキスト（赤本）とビデ オの進捗状況について、基準表（リ ーダー・コーディネータ用）、自 治体の不審者情報について、取材 先について、G2との連携について
21.11.5	教材G会議（藤城 小学校運営協議 会会長など協力 者3名参加）	目白大学 教育研究所	養正小学校での打ち合わせの報 告、基準表（リーダー・コーデ ィネータ用）のチェック
21.11.5	調査G・教材G 合同会議	デスカット品 川港南口店 会議室	効果測定指標と規準表・基準表と の関連について
21.11.12	教材G会議	目白大学 教育研究所	西新井第一小での研修について、 基準表（リーダー・コーディネ ータ用）について、指導者用テキ ス

			ト（赤本）とビデオの進捗状況、新テキストの作成について 等
21.11.21	第五回リーダー会議	JAPET	実証地域における研修会実施の報告及び今後の予定について
21.11.26	教材G会議	目白大学 教育研究所	映像について、指導者用テキスト（赤本）について
21.11.29	教材G会議（藤城小学校運営協議会会長など協力者3名参加）	広島オフィス センター 会議室	リーダー・コーディネータの基準表のレベル調整
21.12.3	教材G会議	目白大学 教育研究所	指導者用テキスト（赤本）とビデオの進捗状況と今後の予定について、ベストプラクティスと基準表、新テキストについて
21.12.10	教材G会議	目白大学 教育研究所	指導者用テキスト（赤本）とビデオの進捗状況と今後の予定について、指導者用テキスト（赤本）に関するアンケートについて
21.12.15	調査G・分析G・教材G合同会議	東大 生産技術研究所	研修会実施マニュアルの検討
21.12.23	第六回リーダー会議	JAPET	子どもを守る防犯コーディネータについて
21.12.23	教材G会議（藤城小学校運営協議会会長など協力者3名参加）	TKP東京駅八重洲ビジネスセンター 会議室	コーディネータの定義について リーダー用新テキストについて
22.1.6	調査G 会議	JAPET	効果測定の集計結果の考察について
22.1.14	調査G 会議	JAPET	効果測定の集計結果の考察について
22.1.15	調査G・支援G合同会議	西宮市大学交流センター	調査結果の分析手法について
22.1.20	調査G・支援G合同会議	東京未来大学	遠隔学習システムについて
22.1.21	第七回リーダー会議	JAPET	中間進捗報告会（外部評価）に向けての最終調整
22.1.26	教材G会議（藤城小学校運営協議会会長など協力者3名参加）	デスカット品川港南口店	テキスト・防犯事典について
22.2.4	有度子どもを守る会 ヒアリング	静岡県 御門台近郊	分析Gによる、ボランティアと警察官へのヒアリング 警察と地域の連携体制について
22.2.16	分析G/支援G Skype会議	株式会社アシアル	分析G/支援G システム連携の方法検討
22.2.19	教材G会議（藤城	京都市立藤城	シンポジウムのスケジュール確

	小学校運営協議会会長など協力者3名参加)	小学校	認、今年度の活動と予定等
22.3.4	調査G 会議	JAPET	効果測定の集計結果の考察について
22.3.4	教材G会議	目白大学 教育研究所	3月の出張予定 ビデオ撮影について 防犯事典について
22.3.16	教材G会議（藤城小学校運営協議会会長など協力者3名参加)	デスカット品 川港南口店	新テキストについて 取材報告
22.3.16	第八回リーダー会議	JAPET	3月30日シンポジウムと来期計画について
22.3.30	教材G会議（藤城小学校運営協議会会長など協力者3名参加)	デスカット品 川港南口店	来年度の研修について
22.3.30	系統的な“防犯学習教材”研究開発・実践プロジェクト シンポジウム：『地域の防犯ボランティア力を活かす』	目白大学	一般に向けた本プロジェクトの周知と、社会的啓蒙を目的としたシンポジウム。実証地域の代表者に研修会進捗状況を報告してもらい、パネルディスカッションを実施。

- (5) 研究開発実施におけるその他の活動
特になし

4. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況

ホームページの公開やシンポジウムの実施等により、本プロジェクトが行政関係者に注目され、数件問い合わせが入っている。まだ具体的な進展はないが、行政や警察が実施している既存の防犯リーダー研修会に参加した地域代表者に対するアフターフォローとして、本プロジェクトの教材や支援システムが活用できるのではないか、という意見もあった。

また、調査対象である4地域以外にも、本プロジェクトの教材や支援システムに関心を寄せている団体（NPO法人エクスプローラー北海道 など）もあり、今後は正式なPDCA地域以外にも協力地域や協力機関を増やしていく計画である。

5. 研究開発実施体制

(1) 調査・実践・検証グループ（略称：調査G）

リーダー：（社）日本教育工学振興会 会長 坂元 昂

実施項目：

① 総括業務

・プロジェクト全体の研究開発内容のとりまとめ、指示、研究開発進行管理

② アンケート調査の実施

③ 研修会の実施

・調査対象地域による「防犯リーダー防犯指導力育成システム」PDCA

・事前事後における効果測定調査

④ 情報収集

⑤ シンポジウムの実施

本プロジェクトの周知と、社会的啓蒙を目的としたシンポジウムの実施。

⑥ 本プロジェクトホームページを活用した啓蒙活動

・支援Gが製作した本プロジェクトホームページの運営

（調査対象地域の活動情報、イベント報告、調査報告などを随時掲載）

(2) 防犯情報分析グループ＜略称：分析G＞

リーダー：東京大学生産技術研究所 教授 目黒公郎

実施項目：

① 防犯特性分析システムおよびデータベースのプロトタイプ構築

② システムのプロトタイプを用いたサンプルデータの分析およびデータベース設計への反映

③ 効果測定手法に基づく効果の見える化システムの設計

(3) 教材開発グループ＜略称：教材G＞

リーダー：目白大学社会学部 教授 原 克彦

実施項目：

①調査・分析

- ・防犯リーダー、本年度の防犯コーディネータに該当する指導力の内容、方法、研修環境などの調査を引き続き実施する。
- ・分析Gが調査した防犯特性分析システムのデータや支援Gの調査したWebサイトのデータ、さらには教材Gが実施したインタビューによる聞き取り調査のデータに対して、テキストマイニングの手法を応用し、防犯リーダーやコーディネータに該当する人材に必要な能力などについて整理を進め、規準・基準表との整合性を図る。
- ・防犯リーダー、防犯コーディネータの資質や役割などについて、引き続きインタビュー調査を実施する。
- ・調査Gの実施する4地域での研修の中で、教材Gが作成したテキスト教材試作版ならびにビデオ教材試作版を活用し、その使い勝手などの調査・分析を行い、改訂のための資料を得る。

②基準表の開発と見直し

- ・研修結果などを踏まえ、防犯リーダーの防犯指導力基準表（Ver.1）の見直しと項目の整理
- ・調査分析に基づいた防犯コーディネータ指導力基準表（Ver.1）の整理

③防犯リーダーの指導力カリキュラム（Ver.1）の試行

④防犯コーディネータの防犯リーダー指導力育成カリキュラム（Ver.1）の開発

⑤研修用教材の開発

- ・研修用テキスト試作版の追加版を作成
- ・防犯リーダー指導力育成用仮ビデオ教材の開発
- ・防犯コーディネータ指導力育成用仮ビデオ教材の開発

(4) 防犯指導支援システムグループ（略称：支援G）

リーダー： 園田学園女子大学 教授 堀田博史

実施項目：

- ①防犯情報検索システムの自動化。
- ②防犯力基準表・防犯指導力基準表に準じた教材のデジタルコンテンツ作成支援。
- ③防犯指導相談支援システムの仮運用とその結果によるシステム修正。
- ④防犯指導効果調査Webシステムの仮運用とその結果によるシステム修正。

6. 研究開発実施者

①調査・実践・検証グループ（略称：調査グループ）

氏名	所属	役職
坂元 昂	(社)日本教育工学振興会	会長
森田 和夫	(社)日本教育工学振興会	事務局長
増田 迪博	(社)日本教育工学振興会	調査部長
西江 麻由美	(社)日本教育工学振興会	リサーチアシスタント研究員
出口 保行	東京未来大学 こども心理学部	教授
大島 直樹	山口大学大学院 技術経営研究科	准教授
横矢 真理	NPO法人 子どもの危険回避研究所	所長
柳田 典子		
大塚 真理子		

②防犯情報分析グループ（略称：分析グループ）

氏名	所属	役職
目黒 公郎	東京大学生産技術研究所	教授
近藤 伸也	人と防災未来センター	主任研究員
大原 美保	東京大学生産技術研究所	准教授
阿部 真理子	東京大学生産技術研究所	大学院
高橋 美奈	東京大学生産技術研究所	研究補助員
石原 繭子	東京大学生産技術研究所	研究補助員
廣田 るり子	東京大学生産技術研究所	研究補助員
沼田 宗純	東京大学生産技術研究所	助教
石川 恵美	東京大学生産技術研究所	研究補助員

③教材開発グループ（略称：教材グループ）

氏名	所属	役職
原 克彦	目白大学 社会学部	教授
尚和 慧	目白大学 卒業生	研究補助員
内橋 美佳	目白大学 教育研究所	助手
宇田川 香織	目白大学 教育研究所	助手

④防犯指導支援システムグループ（略称：支援グループ）

氏名	所属	役職
堀田 博史	園田学園女子大学 未来デザイン学部	教授
稲熊 孝直	園田学園女子大学 短期大学部	助教
佐藤 弘毅	名古屋大学 留学生センター	講師
上相 英之	園田学園女子大学	非常勤講師
森田 健宏	夙川学院短期大学 児童教育学科	准教授
内橋 美佳	園田学園女子大学 国際文化学部	助手
片岡 弘会	園田学園女子大学 卒業生	研究補助員

7. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

(1) 論文発表

(国内誌__0件、国際誌__0件)

(2) 口頭発表 (国際学会発表及び主要な国内学会発表)

①招待講演 (国内会議__0件、国際会議__0件)

②口頭講演 (国内会議__4件、国際会議__0件)

発表者 : 上梶英之, 稲熊孝直, 堀田博史(園田学園女子大学), 佐藤弘毅(名古屋大学), 坂元昂(日本教育工学振興会), 目黒公郎(東京大学), 原克彦(目白大学) タイトル : 警察署が情報発信する子どもの安全に関するWebページの差分情報調査 学会名 : 教育システム情報学会 全国大会 場所 : 名古屋大学 月日 : 平成21年8月20日
発表者 : 堀田 博史, 稲熊 孝直, 上梶 英之(園田学園女子大学), 佐藤 弘毅(名古屋大学), 坂元 昂(日本教育工学振興会) タイトル : 防犯学習Web 教材で求められる幼稚園における安全教育の調査 学会名 : 日本教育工学会 全国大会 場所 : 東京大学 月日 : 平成21年9月20日
発表者 : 西江麻由美, 増田迪博, 森田和夫(日本教育工学振興会), 坂元昂(日本教育工学振興会), 大島直樹(山口大学) タイトル : 教育委員会が推進する安全教育とその指導者育成ニーズに関する調査 学会名 : 情報コミュニケーション学会 第7回全国大会 場所 : 明治大学 月日 : 平成22年2月28日
発表者 : 栗山健 (学研教育出版) , 増田迪博, 森田和夫(日本教育工学振興会), 坂元昂(日本教育工学振興会), タイトル : 系統的な『防犯学習教材』研究開発・実践 学会名 : 情報コミュニケーション学会 第7回全国大会 場所 : 明治大学 月日 : 平成22年2月28日

③ポスター発表 (国内会議__0件、国際会議__1件)

発表者	: Takanao Inaguma, Mika Uchihashi, Hiroshi Hotta (Sonoda Women's University), Takashi Sakamoto (Japan Association for Promotion of Educational Technology), Kimiro Meguro (The University of Tokyo), Katsuhiko Hara (Mejiro University), Mari Yokoya (The Institute for Child Safety)
タイトル	: Research on Safety Information for Children on Japanese Police Station's Web Sites and Construction of a Retrieval System with Differential Backup Information
学会名	: Association for the Advancement of Computing in Education (AACE) ・ ED-MEDIA2009
場所	: Sheraton Waikiki, Honolulu
月日	: 平成21年6月24日

(3) 新聞報道・投稿、受賞

①新聞報道・投稿

- ・静岡新聞 (平成21年12月6日)
「犯罪から子どもを守ろう」藤枝広幡地区が取り組み
- ・足立よみうり新聞 (およびAdachi Yomiuri Web) (平成21年11月19日)
西新井第一小が文部科学大臣表彰～学校安全ボランティア活動で
<http://www.ayomi.co.jp/chiku03/detail.php?eid=01584&kind=03>
- ・教育新聞 (平成22年4月5日)
「防犯リーダーの養成を」犯罪からの子どもの安全でシンポジウム
- ・教育新聞 (平成22年4月12日)
「地域の防犯リーダー育成システム開発へ」中間報告でシンポジウム
(社)日本教育工学振興会と3大学が共同研究
5ヶ年計画で学習教材づくりなど

②受賞 なし

(4) その他の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

- ・本プロジェクトのホームページを開設 (平成22年1月12日公開)
<http://www.kodomo-bouhan.jp/>
内容は、本プロジェクトの紹介、実証地域における研修会報告、地域の防犯活動レポート、研究開発の進捗報告など。また成果物の一部 (防犯情報検索システム等) も公開。

- ・シンポジウムの開催（平成22年3月30日）『地域の防犯ボランティア力を活かす』
一般に向けた本プロジェクトの周知と、社会的啓蒙を目的としたシンポジウムを開催した。調査対象地域の代表者に研修会進捗状況を報告してもらい、パネルディスカッションを実施した。（別添：H21年度シンポジウム報告書.doc 参照）